

## 1 道徳教育・道徳科における評価についての基本的な考え方

「児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」(学習指導要領 道徳)

### ① 意義・前提(「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(以下「解説 道徳編」)より)

◇児童生徒にとっては自分の成長を振り返る契機となるものであり、教師にとっては指導計画や指導方法を改善する手掛かりとなるものである。したがって、常に指導に生かされ、児童生徒の成長につながるものでなくてはならない。

**参考**「学習指導要領 総則」の「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」

「各教科等の指導に当たっては、児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること」

「児童生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること」

◇他者との比較ではなく児童生徒一人一人のもつよい点や可能性などの多様な側面、進歩の様子などを把握し、学期や学年にわたって児童生徒がどれだけ成長したかという視点を大切にすることが重要である。

◇教師が児童生徒一人一人の人間的・道徳的な成長を温かく見守り、共感的な理解に基づいて、よりよく生きようとする努力を認め、勇気付ける働きをもつものであり、児童生徒自身による(道徳的価値に裏打ちされた人間的な)成長の振り返りや道徳性のはぐくみを支援するものである。それは、教師と児童生徒の温かな人格的な触れ合いに基づくものでなくてはならない。

◇それぞれの時間における指導のねらいとの関わりにおいて、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様々な方法で捉え、それによって自らの指導を評価するとともに、指導方法などの改善に努めることが大切である。

### **道徳科の評価に関する前提**

- ・数値による評価ではなく、記述式
- ・他の児童生徒との比較による相対的評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価(他の児童生徒と比較して優劣を決めるような評価はなじまない)
- ・個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価
- ・発達障害等の児童生徒についての配慮すべき観点等を学校や教員間で共有
- ・現在の指導要録の在り方に関する総合的な見直し ⇒ 教師用指導資料の作成・指導要録の改正  
各学校においては、これらに基づき適切に評価を行うことが求められる。

### ② 対象

◆ 道徳性(成長の様子) → 各校重点項目や特に伝えたい内容等について記述

◆ 学習状況(学習活動・指導の過程や成果・授業)

→ 「～の学習では、～の観点から～に気づき、～という考えを深めるとともに、～への憧れを強め、～しようとする発言がみられた。」等々

### 道徳教育の実質化・充実のためには

◆ カリキュラム(マネジメント) ← 学校評価による検証

参考 「解説 道徳編」(～平成10年版)

- ◆ 道徳性の評価
- ◆ 道徳の指導計画の評価
- ◆ 道徳の時間の指導に関する評価(→道徳科における評価の参考)

## 2 道徳性の評価

### ① 道徳性とは？！

#### 【確認】 学校・園における道徳教育とは

「幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、・・・  
道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに・・・」

(幼稚園教育要領)

「学校における道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うもの」

(学習指導要領)

//  
道徳性の育成を目指す教育活動 (自然科学・社会科学的認識は不可欠)

//  
人格の基盤をなすもの 人間らしいよさ

人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指して行われる道徳的行為を可能にする人格的特性  
道徳的諸価値が一人一人の内面において統合されたもの (一つとして同一のものは存在しない)

〔高等学校〕人間としての在り方生き方に関する教育＝道徳教育が目指すもの

「自分自身に固有な選択基準・判断基準」「人生観・世界観・価値観」の形成

#### 児童生徒一人一人に自らの道徳性をはぐくむための確かな材料を

#### しっかりと内在化(自覚)させているだろうか？！

「命を大切に」という「言葉」を知ってはいても、どの程度実感を伴った認識になっているの  
だろうか?! 実践に、さらには道徳性をはぐくもう(道徳的に成長しよう)という姿勢を涵養でき  
ているのだろうか?!

### ② 道徳性の評価において確認しておきたいこと

#### ◎ 「道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない」

(「解説 特別の教科 道徳編」)

- 道徳性は児童生徒の人格全体にかかわるものであり、生涯通じてはぐくみ続けていくもの
- 道徳性の育みは、多様な場面で様々な要因のかかわりの中で行われるもの
- 道徳性の変容は、多くの場合即時的な発現を示さない(長期的・継続的・総合的な評価姿勢)
- 児童生徒自らが調和的に道徳性をはぐくみ、発展させていく窓口ともいべき内容項目は、向上目標的性質のものであり、他の教科における個々の目標との異同を明確にしておきたい

## 3 道徳科の授業に関する評価

#### 「特別の教科 道徳」の目標(極めて重要)

「(前略)よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、  
自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の生き方(人間としての生き方)  
についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」

(学習指導要領)

○これまで「道徳の時間」の特質を規定してきた基本的概念との異同の吟味・確認

(今後、用語そのものの使用はなくなったとしても、新学習指導要領に規定される目標自体に大きな本質の変  
更がなければ、以下に示すような基本的概念に関する共通理解は引き続き必要不可欠)

◇学校における道徳教育の目標及び「要」としての位置づけ

◇補充、深化、統合(学習指導要領の「指導計画の作成と内容の取扱い」において説明)

◇道徳的価値の自覚(新「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」の各所に明示)

◇道徳的実践力

## 学習評価の基本的な考え方 (指導要録)

「学習評価は、学習指導要領の目標の実現状況を把握し、指導の改善に生かすもの」

「児童生徒の学習状況の把握と評価は、学習指導過程における指導と評価を一体的にとらえることが重要である。学習指導過程を評価するためには具体的な観点が必要である。確かな指導観を基に、明確な意図をもって指導の計画を立て、学習指導過程で期待する児童生徒の学習を具体的な姿で表したものが観点となる。その観点をもつことで、指導と評価の一体化が実現する。」(解説 道徳編)

(※ルーブリック評価の実践も広がりつつある)

### 評価の観点例

#### 「道徳性」の諸様相をもとにしたもの

- ◆ 道徳的(思考・)判断力・・・道徳的諸価値について、その根拠等を含めどのようにとらえているか  
道徳的な判断場面において、どのように考え判断するか
- ◆ 道徳的心情・・・道徳的に望ましい(又はその逆の)感じ方や考え方、行為に対して、どのような感情をもっているか
- ◆ 道徳的実践意欲と態度・・・道徳的によりよく生きようとする意志の表れや行動への構えがどれだけ芽生え、また定着しつつあるか

【参考】特別活動をはじめ他の教科等の時間や生活場面においては

- ◆ 道徳的習慣・行為・・・基本的な生活習慣などをどの程度身に付け実践できているか

#### 求められている「学習活動」の存在及び成果をもとにしたもの

- ◆ ねらいに含まれる道徳的価値についての理解を深めることができたか(学習活動の存在も)
- ◆ ねらいに含まれる道徳的価値の理解を基に、自己を見つめられたか(1度とは限らない)
- ◆ 同上, 物事を(広い視野から)多面的・多角的に考えられたか
- ◆ 同上, 自己(人間として)の生き方についての考えを深めることができたか(そのほか、道徳的価値等に対する「自覚」のレベルや道徳の内容項目、「行動の記録」の項目等を観点にすることも考えられる)

そのためにも ◇「曖昧なねらい」からの脱却 (P4 道徳学習指導案の作成例を参照)

あれもこれもではなく、この時間にいったい何をねらっているのか明確化・具体化する

【指導と評価の一体化という意識と具体的スキルの修得】

(もちろん、すべてが他の教科と同質ということではなく、長期的・継続的評価意識やスキルも必要)

ただし、あれもこれもはできない! (評価の理論的可能性と実際の評価活動の実現性は異なるもの)

各学校現場において、できるところからできることを少しずつ(限界の存在を前提として)

### 評価の方法例(基本は観察と言語分析)

誰が・・・授業者、児童生徒、他の教師等(児童生徒による評価(受け止め)を生かす)

どのようにして・・・授業中の観察・授業中の発言や記述内容の分析

児童生徒による自己評価(振り返り等)や授業アンケート等の活用

他の教師による評価の活用

授業前後の観察・授業後の記述内容の分析 etc

### 評価の観点・方法については

「解説 特別の教科 道徳編」及び「解説 道徳編」(平成10・20年)も参照

なお、道徳性の高まりや変容は、比較的短時間に現れるものもあれば、長期にわたる指導にまつものもある

多面的・組織的・計画的・継続的評価も必要である

基本的には測定的(量的)評価ではなく、

分類的(質的)評価であり、個人内評価を大切にし、道徳的成長を認め励ますものにしたい

1. 学 年  
 2. 日 時  
 3. 主題名 家族愛 (C 主として集団や社会との関わりに関すること 小高(15)【現行 小高4 - (5)】)  
 ※簡潔に体言で表す。併せて内容項目(番号)を示す

4. ねらい ・・・(A)・・・(ex 登場人物などの道徳にかかわる行為や道徳的に変化する行為等について考えさせること・～に気付かせること・～を共感的に理解させること・～【道徳的諸価値】についての理解を基に自己を見つめ、自己や人間として生き方の学習 etc)を通して、  
・・・(B)・・・(しようと)する・・・(C)・・・を育てる(養う、培う、高める、豊かにする etc)

- (A) : 教材の活用部分や活用方法(中心発問関連等)、学習活動等を簡潔に表記する  
 (B) : 「内容項目」やその「指導の観点」等から適切に引き出す  
 (C) : 道徳性(≒道徳的実践力)の諸様相(道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度)等を示す

5. 教材名 ・・・・・・・・(ex『私たちの道徳』 文部科学省)  
 ※教材の題名と出典を示す

6. 学習指導過程

	学習活動	主な発問や予想される児童生徒の反応	指導上の留意点
導入	例 ・事前の活動を確認する ・～を想起する etc	※授業への入り方(教材への導入、又は価値への導入)	・教材を使うまでなるべく短時間で etc
展  開	教材を黙読する etc ※学習活動を記述 ・児童生徒が主語になる ・指示や発問ごとに児童生徒が活動することを書く  例 ・～について考える ・～について意見交流する ・～について記述する etc	<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div> ※ <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 100px; height: 15px;"></div> に 発問を書く 中心発問は、二重線で囲む ・の後に予想される反応等を示す <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>	教材を範読する etc ※指導上の留意点を記述 ・教師が主語になる ・児童生徒が考えやすいように ・話がそれないように ・ねらいに迫りやすいように  例 ・〇〇〇を押さえておく ・〇〇〇を補足説明する ・〇〇〇に気付かせる ・〇〇〇に共感させる ・〇〇〇の時は、切り返していく etc
終末	例 振り返りシートを記入する ～のVTRを視聴する etc		例 評価資料として活用し、授業改善に生かす 余韻をもって終わる etc

7. 評価 ※この時間のねらいとの関係から、その学習状況等評価したい内容を評価方法(発言内容・記述内容等)とともに示す(長期的・継続的評価を必要とするものは別途)

キーワードは 「**学習状況**」「**子供に聴く**」「**言葉(言語)化**」「**語り合い**」  
 (授業改善) (観察と言語分析) (メタ認知・共有化・批判的思考力)

# 『道徳授業は か・き・く・け・こ』

「道徳授業は難しい。」という声をよく耳にする。評価はあっても評定のない授業。進度にもそんなに頭を悩ませる必要のない時間。児童生徒さえのってくれば、児童生徒・指導者にとって、ある意味これほどゆとりの中で楽しく展開される授業・時間はないのかもしれない。

多くの道徳授業を参観させていただく中で、児童生徒が生き生きと活動し、人間としての生き方について深く考えようとした授業には、幾つかの共通点が見出される。

ねらいの設定，教材選定，中心発問づくり，学習指導過程の構想，事前事後指導の検討を進める上で留意していただきたい、「道徳授業づくりのポイント」をキーワードにまとめてみた。

「～べき」タイプの授業（指導者ばかりがよくしゃべる） → べきべき壊れる授業

「～たい」タイプの授業（児童生徒が主役，語りたい聴きたい考えたい） → 大切にしたい授業

道徳授業における「わかる授業」（→「学びがいのある授業」）とは  
道徳的価値・人間としての生き方についての自覚へ

自己の生き方・人間としての生き方という観点から

- ① 自分がわかる（時として気付いていない自分の感じ方・考え方等がわかる）
- ② 他者(人間)がわかる（自分以外の人の感じ方・考え方・生き方等がわかる）
- ③ 道徳的価値がわかる（人間として生きていく上で大切なことがわかる）

かたれる・きける・かんがえられる 集団

有意義な道徳授業を創造するには  以下の「かきくけこ」を授業の中に！

か 感動・葛藤（価値葛藤・心理的葛藤） → 考えたくなる  
語り合い（←話合い） 考える必然性のある問い 《改善》

き 共感（的理解）・疑問・気付き・驚き（既成概念・価値観くだき）  
聴き合い 協働 共育（共に考え育つ・共に育てる）

く 食い込み（なぜ？どのように？を大切にした重層的発問，反問教師）

け 経験（児童生徒一人一人の具体的生活）の振り返りと活かし 《検証》

こ 交流（多様な感じ方，考え方）（授業は生きもの）こだわるな！

# 実践事例

\*今日の授業を振り返って\* 11/2, 9

生命の尊重

年 組 番 名前

あてはまるところに○をつけてみよう。

①自分以外の生き物もかけがえのない命があり、生き続けたいという意志を持っていることが理解できましたか？

理解できなかった	あまり理解できなかった	だいたい理解できた	理解できた

②生きていることそれ自体が価値あるすばらしいことであることが理解できましたか？

理解できなかった	あまり理解できなかった	だいたい理解できた	理解できた

③ハトを楽にしてやるか、最後まで面倒を見るのか、「命のかけがえのなさ」について考え、自分ならどうするか考えられましたか？

考えられなかった	あまり考えられなかった	だいたい考えられた	考えられた

④一度きりの人生をどう生きるか、ハトの死を通して考えられましたか？

考えられなかった	あまり考えられなかった	だいたい考えられた	考えられた

⑤授業を振り返って、印象に残ったものに○をつけてみよう。いくつ○をつけてもかまいません。

資料・教材		友達の意見・感想	
板書		先生の話	
その他( )			

今日の授業の感想を書こう。

☆今日の道徳を振り返って☆

たいへん ←

ふつう →

まったく

資料はよかったか	5	4	3	2	1
共感・感動したか	5	4	3	2	1
新たな発見があったか	5	4	3	2	1
自分を振り返り、考えることができたか	5	4	3	2	1
全体	5	4	3	2	1